

実践報告

札幌市立西岡北中学校

(1) 研究内容

研究課題：「アイヌ民族の方を学校に招いて行う体験的学習に関する研究」

- ・ 先住民族であるアイヌの優れた文化・生活観についての理解を深める。
- ・ 歴史の中で、差別や貧困にさらされたアイヌの存在について理解する。
- ・ 互いの違いを理解し、尊重し合う中で「共生社会実現」への主体者の意識を高める。

(2) 実践の内容

【実践①】「交流までの学習」について

○ねらいと学習内容

- ・ 地理、歴史、公民それぞれの分野で学んだ「アイヌ民族」「平等権」「先住民族の国際性」などについての既習事項を整理するとともに、子どものもつ興味や疑問を喚起する。
- ・ 「イランカラプテ」に代表されるアイヌ語の心や、精神に興味や関心を抱かせる。

【実践②】「アンコラチメノコウタラの方々をお迎えして」について

○ねらい

- ・ 集会形式で体験的な学習を行うことにより、お迎えする心や実際にお話を聞いた
り、踊ったりという交流を楽しむ。
- ・ この体験をきっかけに、人権の尊重という意識を高める。

○学習内容

- ・ アイヌ民族の方々からの講話や器楽演奏、舞踊を鑑賞する。
- ・ アイヌ舞踊の「輪踊り」を生徒全員も参加して体験する。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 「アンコラチメノコウタラ」の方々のお話は大変分かりやすく、子どもは親しみを感じながら聞いていた。また、色々な事をご説明いただく中で、過去や現在のアイヌの置かれている立場や境遇に対し、知りたい意欲を高めていた子どもも多かった。舞踊体験や輪踊りでアイヌの方々への感謝を表した子どもの姿勢も素晴らしく、意義深い体験を行うことができた。
- ・ 子どもは生の演奏や舞踊に触れる中で、確実に興味と関心を高めていた。音色の響きや声の豊かさに聞き入っていた。

② 課題

- ・ 事前学習を系統的かつ計画的に進めるなど、工夫の余地がある。
- ・ 共にこの地で暮らしているアイヌの方々 existence を知り、偏見や差別をなくしていくことの大切さを、授業後も感じ続けていけるような指導の工夫が必要である。
- ・ アイヌ民族に関する人権にとどまらず、人権の大切さを常に意識できる主権者として育てていくことが求められる。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 今回の経験では、アイヌ民族の文化の素晴らしさを一生懸命に伝えようとしている、講師の方の姿が生徒にはストレートに伝わっていたと思う。同時に、一緒に踊るという行為を通して、相互理解を深めることが出来たと考える。
- ・ 自分たちの文化に誇りをもち、それを広めようとする人々の姿に触れることは、他者だけではなく、自分たちの文化にも再度目を向け、誇りをもつことにつながっていくと考える。
- ・ このような経験を重ねることで、アイヌ民族だけにとどまらず、様々な立場の人々に対する人権意識が生徒たちの心に根付いていくものと考えられる。